

観光資源としてみるスポーツスタジアム ー花園ラグビー場、京都サンガスタジアムー

Regional Revitalization through Sports Tourism Utilizing Tourism Resources: A Case Study of Hanazono Rugby Stadium and Kyoto Sanga Stadium

追手門学院大学大学院 現代社会文化研究科 王 晨勳
Otemon Gakuin University Graduate School Wang ChenHsun

Keywords Sport tourism Tourism resources
Community revitalization

1. はじめに

本報告は、スタジアムやその周辺で展開されるスポーツツーリズムを観光資源として位置づけ、地域活性化にどのように寄与しているか検討することである。その事例として、花園ラグビー場や京都サンガスタジアムに現地調査を実施した。

2. スポーツツーリズムと観光資源

日本は 2003 年に、小泉首相（当時）が観光立国宣言した、観光とスポーツの融合は、地域間あるいは国家間における交流人口の拡大を図るうえで有効な方法である。

スポーツツーリズムとは、「する」「観る」「支える」スポーツ観戦を目的とした旅行や、その際に行われる周辺観光、さらにスポーツを支える人々との交流など、スポーツに関連する多様な形態の旅行を指す¹。（観光庁、2011）

2014 年には観光庁が「スポーツツーリズム全国連絡協議会」を設立、2015 年にはスポーツ庁が創設され、推進体制がさらに整備された。2017 年には「スポーツ基本計画（第 2 期）」および「スポーツツーリズム需要拡大戦略」が策定され、2022 年には「スポーツ基本計画（第 3 期）」が策定されるなど、継続的な政策展開が進められている。

観光資源とは「観光に利用するために、人びとの働きかけの対象になり得る地域の要素」²（森重 2012, p. 114）とされ、スポーツも観光対象として活用されている。スポーツツーリズムにおける「支える」側面は、イベント成功や地域活性化に不可欠であり、ボランティア活動や地域住民による運営サポート、スポーツコミッションの活動などが具体例として挙げられる。また、スポーツツーリズム推進連絡会議は、スポーツを通じて日本各地の多様な観光資源を発信・体験させることで、日本観光のブランド価値向上と地域活性化を目指している。

3. 東大阪市（花園ラグビー場）

「ラグビーのまち」として知られる東大阪市では、2010年にラグビーワールドカップ2019（以下はRWC2019とする）誘致室が発足し、市民の署名やPR活動を経て2015年に花園ラグビー場での開催が決定した。これを契機に市のスポーツ推進体制が強化され、2017年には「スポーツのまちづくり戦略室」、2019年には「スポーツ推進計画」が策定された。RWC2019では花園ラグビー場で4試合が開催され盛り上がりを見せ、2020年にはスポーツ関連部局が市長部局へ移管され、「スポーツビジネス戦略課」の設置、「花園ラグビーの日・週間」の制定が行われた。³（東大阪市，2024）

東大阪市のスポーツイベントやスポーツツーリズムは、主に花園ラグビー場周辺に集中している。近鉄東花園駅や周辺一帯にはラグビーまたはスポーツ関連の施設や展示が整備され、ラグビー場の近くにはドリーム21やラグビー場ミュージアムが見学可能である。また、一駅先の河内花園駅から徒歩8分くらいにはラグビー神社と呼ばれている吉田春日神社があり、年末年始の全国高校ラグビー大会などの開催期間にはラグビー関係者が訪れる。また、もう一つの枚岡神社近くの枚岡駅にあり、「ラグビーお守り」がもらえる。さらに、周辺を拠点とするプロチームには、ラグビーの花園近鉄ライナース、サッカーJ3のFC大阪、野球独立リーグの大阪ゼロロクロブルズがあり、サッカーとラグビーは同じく花園ラグビー場で試合するが、野球は隣のセントラルスタジアムで行う。試合開催時には多くの観客が訪れるほか、飲食店やグッズ店も点在し、「観る」スポーツツーリズムとなっている。一方、東大阪市には球場以外の地域ではスポーツツーリズムは限られており、布施商店街にわずかにチーム関連表示が見られる程度である。

4. 亀岡市（サンガスタジアム by KYOCERA）

2020年に完成した府立京都スタジアム（サンガスタジアム by KYOCERA）や、2022年の京都サ

ンガF.C.のJ1昇格は、地域におけるスポーツ熱を高め、スタジアム周辺をスポーツイベントの中心地として発展させる契機となった。⁴（亀岡市，2022）

京都サンガJ1の試合を中心にスポーツイベントが展開されており、京都駅を皮切りに亀岡駅までもチーム関連の掲示や展示が整備されている。試合期間中はスタジアム周辺が賑わい、スタジアムの隣には広場があり、屋台もたくさん出店され、観客が食べながら試合前の雰囲気が楽しめる。また、近くにも「かめきたスポーツパーク」というミニ球場やスケートボール場があり、予約制で使うことができる。スタジアムには予約制のバスケットボール場もある。さらに、グッズ店も整えて、時々サッカーのゲームや選手ミーティングなどのイベントもある。一方で、スタジアム周辺にはこれらの観戦に関することがあるが、他地域は主に住宅地で構成されている。

5. おわりに

本報告は、スポーツツーリズムおよび観光資源に関する先行研究を整理し、東大阪市花園ラグビー場と京都サンガスタジアムを事例に現地調査を行った。観光資源としてのスポーツツーリズムが周辺店や住民にもたらす効果検討した。

（注）

1. 観光庁（2011）「スポーツツーリズム推進基本方針」
2. 森重昌之（2012）「観光資源の分類の意義と資源化プロセスのマネジメントの重要性」阪南大学学会『阪南論集 人文・自然科学編』第47巻第2号 p. 114
3. 東大阪市（2024）第2次東大阪市スポーツ推進計画
4. 亀岡市（2022）かめおかまるごとスタジアム構想